

風浪宮例大祭【ふうろうぐうれいたいさい】



開催場所

大川市大字酒見 726・1

風浪宮

開催日

2月8日・2月11日

指定

市町村指定無形民俗文化財

【芸能の概要】

風浪宮例大祭は通称「おふろうさん」と呼ばれ、約1800年の歴史がある風浪宮で古式に沿って極めて厳粛に行われる。筑後三大祭の一つに数えられる、大川市最大の祭りである。祭は4日間行われ、前夜祭として「裸ん行」が行われる。「裸ん行」は約500名の若者が、午後7時30分より若津神社から風浪宮まで締め込み姿で走る。4日目には、主に「お潮井詣り」「御神幸祭」「流鎚馬(やぶさめ)」がある。「お潮井詣り」は船様の山車5基が化粧をした稚児を乗せて、神輿と共に市内約5kmをパレードをする。「流鎚馬」は御神幸祭の後、神社前の大川公園で行われるもので、大川市指定文化財に指定されている。

【芸能の特徴】

風浪宮の縁起は、192年に神功皇后が親征し、筑後の津(榎津)に舟を寄せた際に現れた白鷺を、勝運を開いた少童命(わたつみのみこと)と信じ、その白鷺が止まった所に少童命を祀り、201年に現在の地に遷座したものである。少童命、息長垂姫命(神功皇后)、住吉大神、高良玉垂命を祭神とする。風浪宮例大祭は、神社創建当時から行われていたといわれ、1669(寛文9)年に現在の形式になった。「裸ん行」の起源も大変古いといわれるが、元々個人の信仰上の伝承であったため、詳細は定かではない。「風浪勝運太鼓」は、古くから神職によって行われていた宮太鼓を基本に、行橋の飛龍八幡太鼓の先生に習い、平成10年に再結成したもの。

【使用する祭具・道具など】

「大御幣さん」は、祭りの始まった当時、神輿がなかったため、依代として神様を運んでいたもの。「宮乙名五騎船(みやおとなごきせん)」は、どんすの布団を船に似せた車に乗せたもので、化粧をした稚児を1名ずつ乗せたもの。昭和45年頃までは馬に布団をくりつけていた。流鎚馬の的は、おふだ(大麻)を竹にはさみ、紙で編んで作ったもの。衣装も含め、流鎚馬の道具類は馬方が作製する。

・アクセス

西鉄柳川駅より佐賀行きバス20分中原バス停下車徒歩15分(2月9日より11日は西鉄柳川駅より無料直行バスが1日7往復でている)
西鉄柳川駅より車で15分

・周辺の観光

古賀政男記念館、大川市立清力美術館、旧吉原家住宅、インテリアポート
大川木の香マラソン大会(2月)
古賀政男記念大川音楽祭(3月)
大川木工まつり(10月)
大川市総合美術展(11月)

・近くの特産品

木工製品、海苔、酒

